

【 津 久 見 市 】

平成 3 1 年度 大分県学力定着状況調査

1. 調査の概要

目的

教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる
(わかりやすい授業の実施、家庭学習の取組の見直しなど)

調査内容

学習到達度調査 (「知識」及び「活用」)

小学校 5 年生 国語、算数、理科

中学校 2 年生 国語、社会、数学、理科、英語

総合質問紙調査・・・生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

結果

市町村ごと、学校ごと、児童生徒一人一人に提供

2. 調査結果の概要

①小学校 教科別偏差値 (全国平均を 50 とした時の各集団の値)

小学校 5 年生	国語		算数		理科	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
大分県 (市町村立学校)	52.1	51.6	52.2	52.1	52.2	51.3
津久見市	52.7	53.3	53.5	55.5	53.8	51.9

網掛け部は
全国平均 50
を超えたもの

・中学校 教科別偏差値 (全国平均を 50 とした時の各集団の値)

中学校 2 年生	国語		社会		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
大分県 (市町村立学校)	51.8	50.5	50.5	50.3	50.7	50.6	50.9	50.5	50.3	50.3
津久見市	51.5	50.2	50.8	49.4	51.3	50.2	48.0	49.0	50.4	50.7

各教科の問題種別の偏差値を全国平均 (偏差値 50) や県の値と比べると、小学校では全教科で、「知識」に関わる問題、「活用」に係る問題ともに全国平均、県の値を上回った。
中学校では、社会「活用」と理科「知識」・「活用」で全国平均を下回った他は、全国平均を超えている。
また、社会・数学の「知識」と英語の「知識」・「活用」では県の値を上回った。

③小学校 各教科・領域別の正答率及び目標値

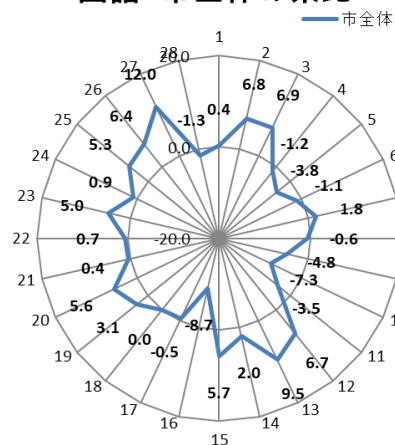
小学校 国語		津久見市	大分県	目標値
全体		78.0	76.3	69.6
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	88.1	83.4	76.7
	書くこと	71.5	66.8	56.7
	読むこと	73.5	73.4	71.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.3	81.0	73.3

小学校 算数		津久見市	大分県	目標値
全体		74.4	70.3	66.1
学習指導要領 の領域	数と計算	80.3	76.4	71.8
	量と測定	74.8	69.6	66.7
	図形	62.4	60.5	56.3
	数量関係	62.9	58.4	54.2

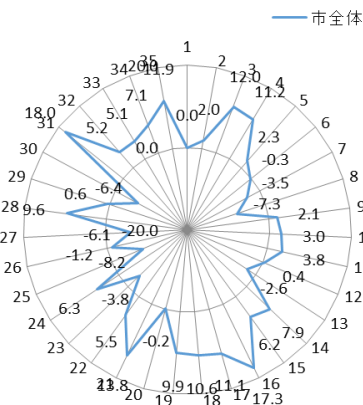
小学校 理科		津久見市	大分県	目標値
全体		72.9	70.3	66.9
学習指導要領 の領域等	物質・エネルギー	65.7	63.4	62.0
	生命・地球	79.6	76.7	71.6

・小学校 各教科・問題別の正答率の県比較

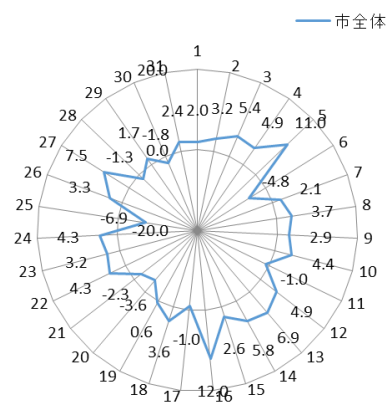
国語 市全体の県比



算数 市全体の県比



理科 市全体の県比



教科ごとに学習指導要領の領域別の平均正答率を目標値や県全体の値を比べると、小学校では各教科ともに、すべての領域で、目標値と県の値を上回った。

特に、国語の「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域では目標値を10p以上上回り、算数の「数と計算」「量と測定」の領域でも目標値を8p以上上回った。

他方、個々の問題の平均正答率を県の値と比べると、例えば国語では問題番号10で県の値を7p程度下回るなど、全体の平均正答率では県の値を上回っているが、個々の問題では県の値を5p以上下回っている問題もあることがわかる。

特に、次のような問題で課題が見られた。

＜小学校＞

【国語】

・漢字を書く ・物語文の読み取り

【算数】

・複合図形、立体 ・図と式の関連を説明する ・求め方を言葉や式で説明する

【理科】

・事象が変化する理由をグラフ等から推測する ・観察や実験の結果と原因を結びつけて説明する

④中学校 各教科・領域別の正答率及び目標値

中学校 国語		津久見市	大分県	目標値
全体		69.7	70.2	63.5
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	72.2	69.7	64.0
	書くこと	77.0	76.1	65.7
	読むこと	49.9	51.9	49.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.8	77.6	70.4

中学校 社会		津久見市	大分県	目標値
全体		66.6	66.7	62.7
学習指導要領の領域	世界の地域構成	56.0	55.5	56.7
	世界各地の人々の生活と環境	71.8	71.9	66.3
	世界の諸地域	63.4	65.2	63.6
	古代までの日本	73.3	73.6	66.7
	中世の日本	61.0	59.1	55.0

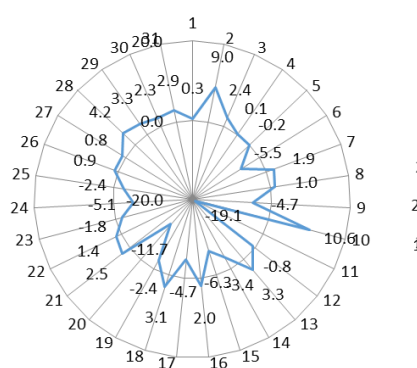
中学校 数学		津久見市	大分県	目標値
全体		57.5	56.8	54.0
学習指導要領の領域	数と式	72.5	70.0	65.7
	図形	55.9	57.4	56.4
	関数	41.0	40.4	39.4
	資料の活用	46.7	47.0	43.3

中学校 理科		津久見市	大分県	目標値
全体		55.6	61.0	57.4
学習指導要領の領域	エネルギー	48.5	55.1	54.0
	粒子	62.7	69.2	64.0
	生命	63.6	63.2	57.1
	地球	46.0	54.6	52.5

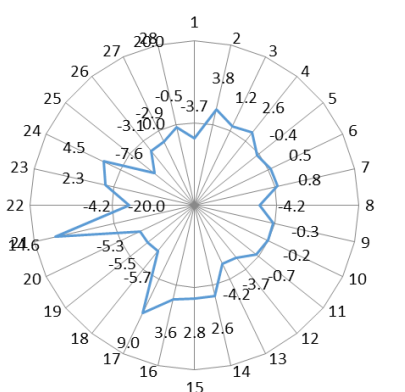
中学校 英語		津久見市	大分県	目標値
全体		59.8	59.4	60.4
学習指導要領等の領域	聞くこと	70.7	71.6	71.0
	読むこと	58.3	58.5	62.1
	書くこと	52.8	50.8	50.8

・中学校 各教科・問題別の正答率の県比較

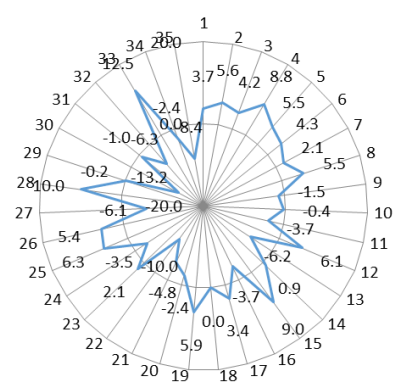
国語 市全体の県比



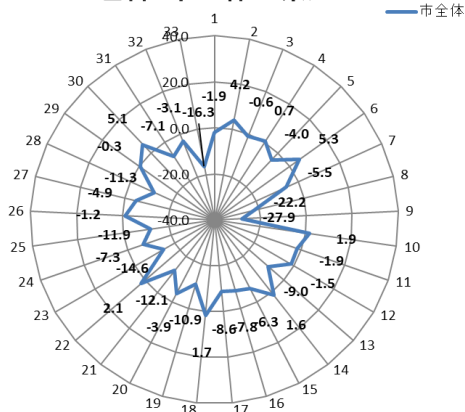
社会 市全体の県比



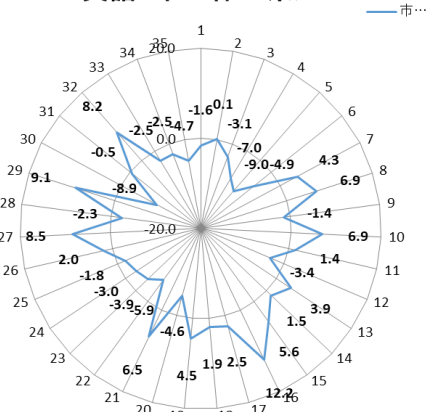
数学 市全体の県比



理科 市全体の県比



英語 市全体の県比



中学校で、小学校と同様に、教科ごとに学習指導要領の領域別の平均正答率を目標値や県全体の値を比べると、多くの教科で、複数の領域にわたり、目標値や県の値を下回っている。

特に、理科の「エネルギー」「粒子」「地球」の領域では県の値を5 p以上下回った。

さらに、個々の問題の平均正答率を県の値と比べると、例えば国語では問題番号11や20、数学では問題番号22や30、理科では多くの問題で、県の正答率を10 p以上下回った問題があったことがわかる。

特に、次のような問題で課題が見られた。

<中学校>

【国語】

・漢字を書く ・説明文や文学作品の読み取り ・文章をわかりやすい文章にする

【社会】

- ・複数の資料をもとに考察・判断する

【数学】

- ・グラフから説明できることを判断する
- ・文章題から、式を立てる

【理科】

- ・「エネルギー」「粒子」「地球」領域に関する問題
- ・「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」の観点に関する問題

【英語】

- ・対話文の応答に関する問題
- ・長文の読み取りに関する問題

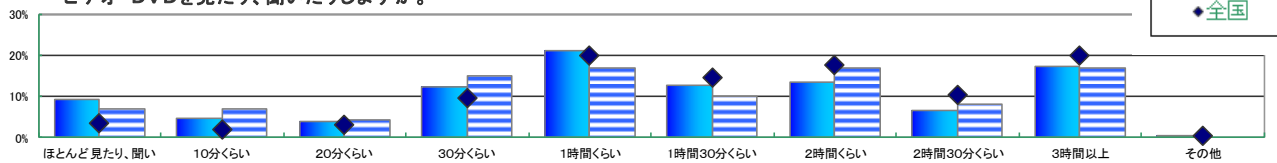
3. 児童生徒質問紙結果から抜粋

児童質問紙

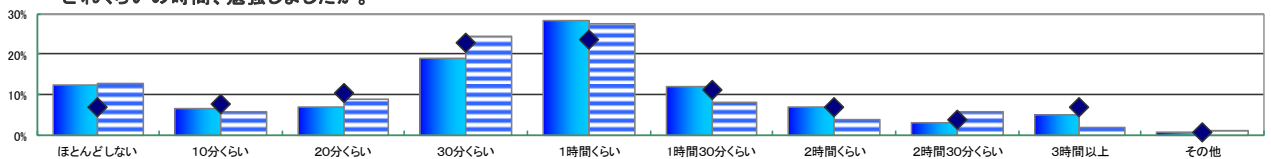
生活習慣改善や授業改善につながる質問項目への特徴的な回答状況（抜粋）

生活習慣

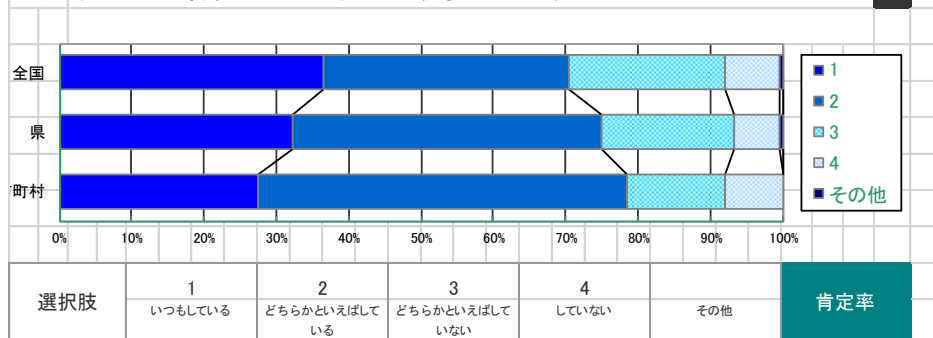
2) 学校の授業がある月曜日から金曜日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。



3) 学校の授業がある月曜日から金曜日に、あなたは、学校の授業時間以外に、1日どれくらいの時間、勉強しましたか。

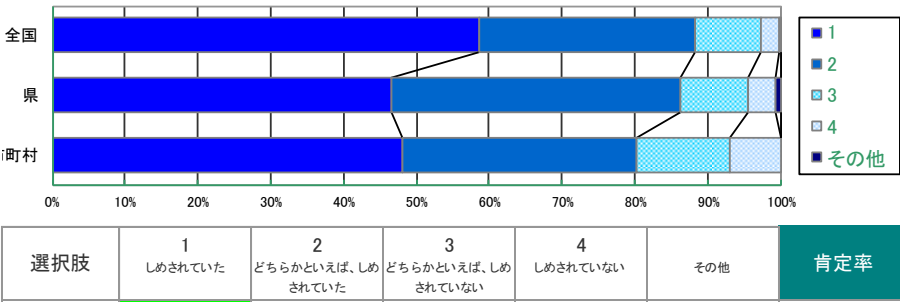


4) 家の人から言われなくても、進んで勉強している。

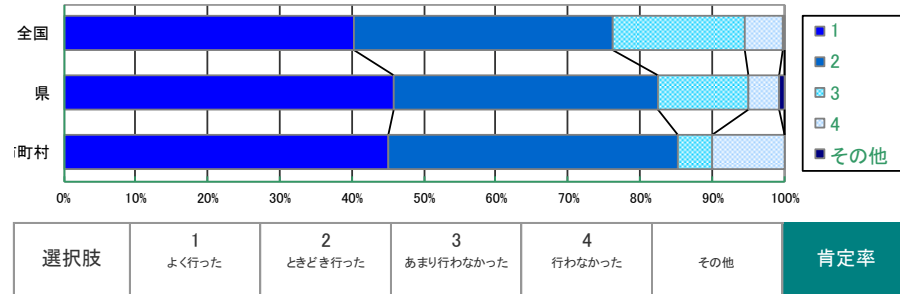


学習の様子

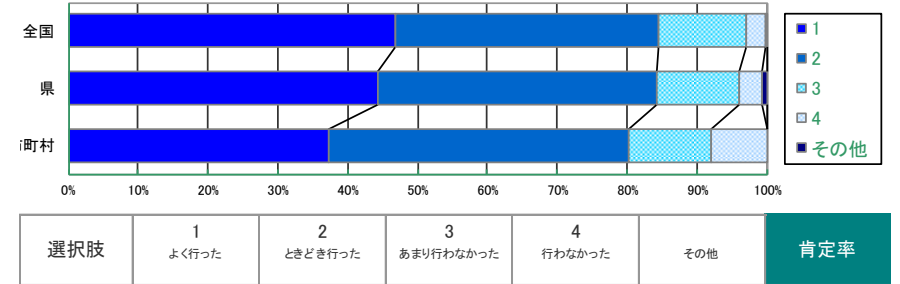
1) 4年生までに受けた授業の中でめあてや課題がしめされていたと思いますか。 126



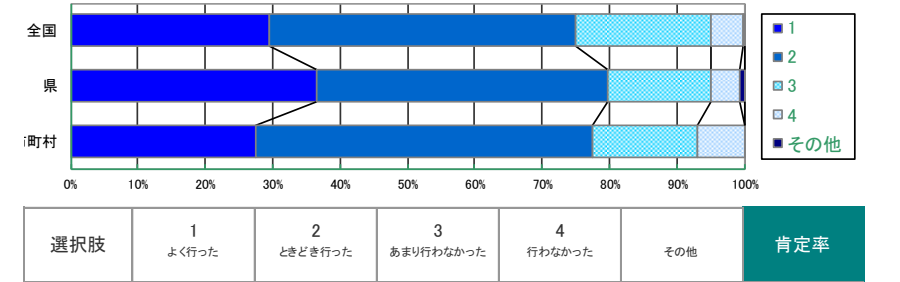
2) 4年生までに受けた授業の最後に学習内容のまとめや
ふり返りをよく行っていたと思いますか。 127



3) 4年生までに受けた授業では、学級の友だちとの間で
話し合う活動をよく行っていたと思いますか。 128



4) 4年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に
向けて調べたり、話し合ったりしながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。 129



小学校5年生の平日の生活に関して、テレビなどの視聴時間については「1 時間くらい」、「2 時間くらい」、「3 時間以上」との回答が多い。家庭学習については、「1 時間くらい」が最も多く、次いで「30 分くらい」が多い。家庭学習について、家の人からいわれなくても「いつもしている」とした割合は県、全国の値より少ないが、「どちらかといえばしている」とした割合と合わせると、県、全国の値よりも多くなる。

学習の様子については、4 年までの授業の中で、めあてや課題が「しめされていた」との回答割合は県の値を上回るものの、まとめや振り返りを「よく行った」、話し合う活動を「よく行った」、課題追求型の学習活動を「よく行った」とする回答割合は県の値を下回った。

問題解決的な展開の学習の中で、問題の解決につながる、視点を明確にした話し合い活動を行う経験を積み上げていくことが求められる。

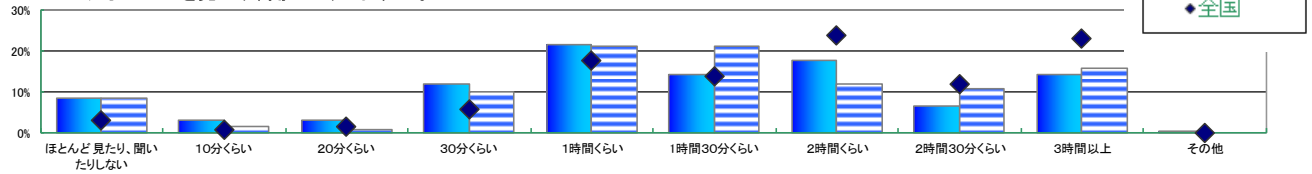
生徒質問紙

生活習慣改善や授業改善につながる質問項目への特徴的な回答状況（抜粋）

生活習慣

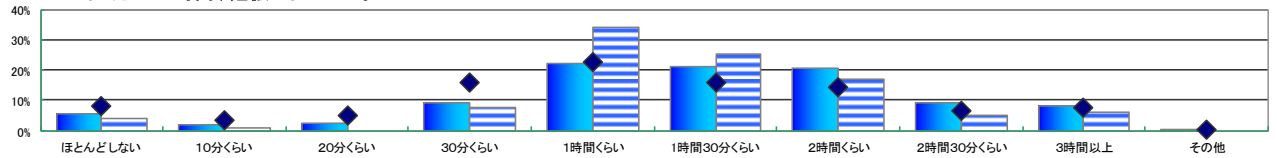
2) 学校の授業がある月曜日から金曜日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。

101



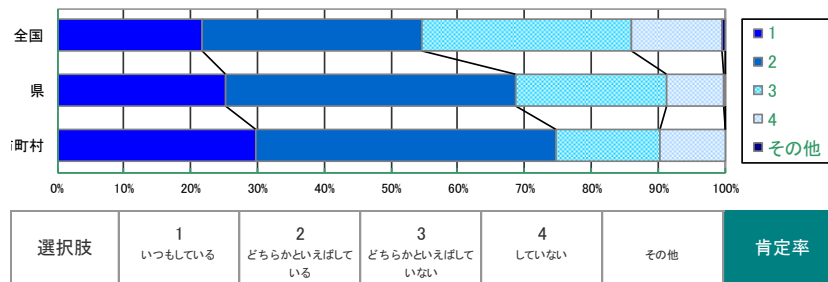
3) 学校の授業がある月曜日から金曜日に、あなたは、学校の授業時間以外に、1日どれくらいの時間、勉強しましたか。

107



4) 家の人から言われなくても、進んで勉強している。

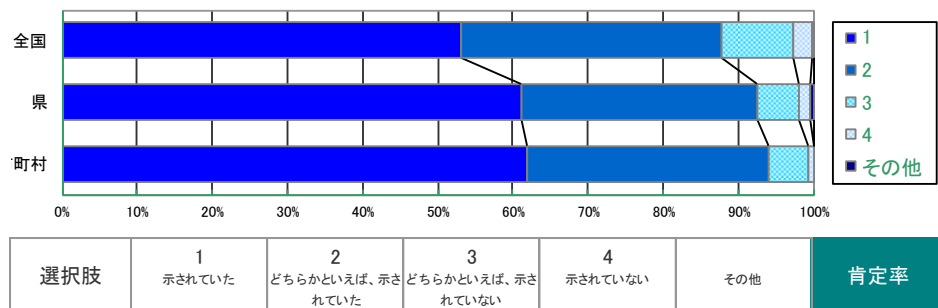
98



学習の様子

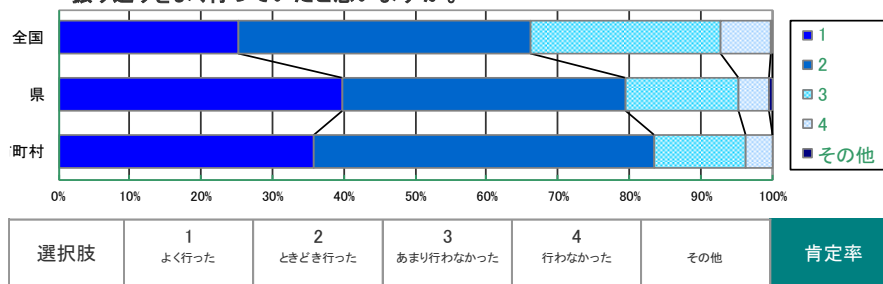
1) 1年生のときに受けた授業の中でめあてや課題が示されていたと思いますか。

132



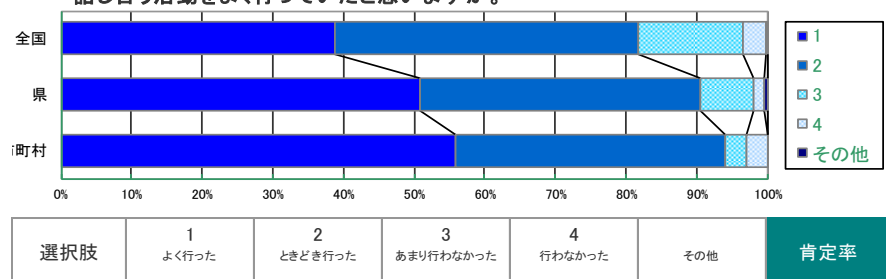
2) 1年生のときに受けた授業の最後に学習内容のまとめや
振り返りをよく行っていたと思いますか。

133



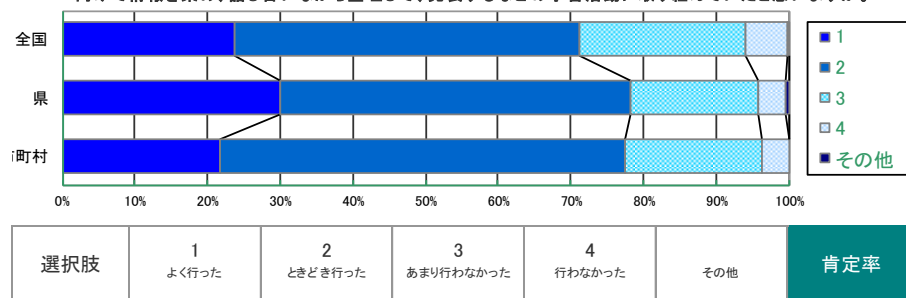
3) 1年生のときに受けた授業では、学級の友だちとの間で
話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

134



4) 1年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に
向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。

135



中学校2年生の平日の生活に関して、テレビなどの視聴時間は「1時間くらい」「2時間くらい」との回答が多い。家庭学習については、「1時間くらい」が最も多く、次いで「1時間30分くらい」とした割合が多い。家庭学習について、家の人からいわれなくても「いつもしている」とした割合は県、全国の値を上回った。

学習の様子については、1年のときの授業の中で、めあてや課題が「示されていた」との回答割合は県の値を上回るものの、まとめや振り返りを「よく行った」は県の回答割合を下回る。また、話し合う活動を「よく行った」との回答割合は県の値を上回るものの、課題追求型の学習活動を「よく行った」との回答割合は県の値を下回った。

単元や題材などの学習のまとまりの中で、自分たちで課題をたて、課題解決につながる、視点を明確にした話し合い活動を行う経験を積み上げていくことが求められる。